

「伊勢御師に関する文書を読む」

資料1 「伊勢参宮礼状」

(野中家文書No.五一五七)

(包紙)

「中奈良村

御師

野中彦兵衛様

三日市大夫次郎

御母ほのさま

」

一筆致啓上候、弥御堅勝

可被成御座珍重存候、然者

先達而御参 宮之所、

龜末之仕合残念之至ニ

御座候乍併御参 宮

御礼拝首尾能相濟(濟)、幾久

目出度奉存候、弥御道中

御安全可被成御帰國(国)、大悦ニ

存候、尚重而御参 宮奉

待候、恐惶謹言

三日市大夫次郎

八月吉日

公(花押)

野中ほのさま

資料2 「廻村之節年越依頼」

(森田家文書No.四九七二)

一筆致啓上候、時節甚寒之砌、

御地御家様御揃御清栄ニ被成

御凌珍重奉賀候、然者昨年者

於御貴宅歳越仕、大慶至極奉存候、

当年茂出役仕候得共、廻村多用ニ而

以代其御村方江差遣し候間、万端

宜御頼申上候、尚大夫次郎之哥(歌)壺(一)枚

僉品相添差上申候間、御手納可被下候

何連貴面万々御礼可申上候、早々謹言

十二月十五日

三日市

手代

村井藤吉郎

森田常右衛門様

尚々野口藤助様御一同様江宜

貴方様より御羈(鶴)聲(声)可被下候

※読み下し(本文の箇所のみ、自分の講義用です)

一筆啓上致し候弥御堅勝に

御座成らるべく珍重に存じ候、然らば

先達て御参宮の所

龜末の仕合残念の至りに

御座候併(しか)しながら御参宮

御礼拝首尾能く相済み幾久しく

目出度く存じ奉り候弥御道中

御安全に御帰国に成らるべく大悦に

存じ候尚重ねて御参宮待ち奉り

候恐惶謹言

一筆啓上致し候時節甚寒の砌

御地御家様御揃御清栄に御凌に成られ

珍重賀し奉り候、然らば昨年は

御貴宅に於いて歳越仕大慶至極に存じ奉り候

当年茂出役仕候得共廻村多用にて

代わりを以て其御村方江差遣し候間万端

宜敷御頼み申し上げ候尚大夫次郎之歌一枚

龕品相添差上申候間御手納下さるべく候

何れ貴面万々御礼申し上げべく候早々謹言

尚々野口藤助様御一同様へ宜しく

貴方様より御鶴声下さるべく候